



パテントコンテスト応募支援について

となる（これは首周りの寸法ではなく服の寸法である）。

表1 UNIQLOの商品サイズ[1] (単位:cm)

	XS	S	M	L
着丈	67	69	71	73
桁丈	45	46.5	48.5	50.5
肩幅	44.5	46	47.5	49
身幅	51	54	57	60
袖丈	23	23.5	25	26
首周り	39.5		41.5	43.5

	XL	XXL	3XL	4XL
着丈	76	77	78	79
桁丈	52.5	53.5	54.5	56
肩幅	51	53	55	57
身幅	64	68	72	76
袖丈	27		27.5	
首周り	45.5	47.5	49.5	51.5

次に類似の発明品との違い、新規性などの検討を行う。

図1の類似品は金属製でハネを用いることでハンガーの肩の部分曲げることが可能となり衣服の褶ぐりを伸ばさずに出し入れすることができる発明品である。この発明品はハネを用いているが、金属の特性上曲げすぎると完全には元に戻らなくなることや、衣服の中から出すときに操作が面倒で、両手を使わないとハンガーを曲げられないという欠点がある。この発明品と今回 30 班が発明したハンガーを比べると、ハンガーを曲げる方向などは類似性があるが曲げるための機構などに新規性があると考える。

図1 特開 2025-081952 [2]  
2 / 11

図2の類似品はハンガーアームを握ることでハンガーの横幅が狭くなり衣服から出し入れしやすくなるという発明である。この発明は身長が低い女性や子どもが使用する場合、物干し竿にかかった状態、つまり自分の背より高いところにハンガーがかかっている場合にそのままの状態ではハンガーを握って折り曲げることが難しく、一度物干し竿から取り外してから折り曲げる必要があるため使用しづらいといった問題点がある。さらにハンガーの材料によっては握力が弱いとそもそも折り曲げられないという欠点がある。

図2 特開 2016-165430 [3]

図3の類似品は、アームの左右の開閉を連動させ、加えてアームプレート(折りたたむための軸)の回転と移動を連動させることによってコンパクトに収納することを可能とした発明である。このハンガーは、コンパクトに収納することに重点が置かれているため、ハンガーを折りたたんでいる状態からハンガーを掛ける場合、褶ぐりハンガーを入れてから開く時の動作がしづらいと考える。

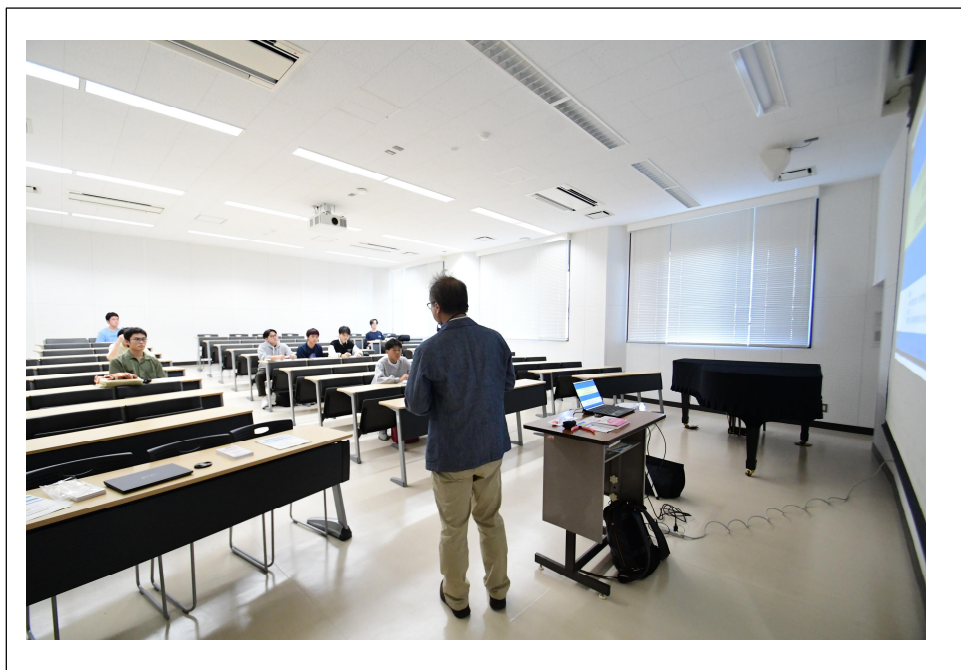
図3 特開 2024-034996[4]

図4の類似品はフック部を持ち上げる（操作部 300 をスライドすることによってハンガーアームが内側に折りたたまれ横幅が狭くなるという発明である。この発明は洗濯物の重みによって物干し竿にかけた際にフックが引かれ勝手にアームが折りたたまれ衣服が落ちてしまう可能性がある。またフックを引く際片手でフックを引き片手でそれ以外の部分を持つ必要があり両手が塞がってしまううまく洗濯物をとれない可能性も考えられる。

3 / 11

パテントコンテスト発明提出書抜粋（受賞したグループのもの）（図1）

知的財産管理技能検定 3級試験対策講座について



知的財産管理技能検定 3級試験対策講座第1回の様相（写真1）

## 令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	専 02	学校名	富山高等専門学校	担当教員名	
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）		<input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集		
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	キャリアビジョン・キャリアプラン・知的財産を学ぶ講演会(2回)	第2学年学生・講演会実施	3,4,6,7,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	第13回高校生ビジネスプラングランプリへのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の2チーム	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	第12回マイナビキャリア甲子園へのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の4名	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	第3回高専起業家サミットへのエントリー指導	アントレプレナー研究同好会の2チーム（うち1チームは他高専との連携）	1,3,4,6,7,11		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	課題発見型インターンシップの調整	4年生の学生対象	1,3,5,6,8		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	学生の参画を多く進めることができたため。 一部のテーマについては調査段階でとどまったため、概ね達成とした。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	(1) 2年生向けのセミナーについては全学科240名の参加 (2) 同行会等の活動については、20名の学生が参画 (3) 課題発見型インターンシップについては企業側との調整にとどまったが、北九州および大分高専との連携についても調整を進めた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	①				
成果内容	・2学年では夏季に1回、冬季に1回の講演会(学習会)を開催し、キャリアプラン、アントレプレナーシップ、知財に関する基本的な知識に関して連続性のある内容で指導を行ったことで、これらの内容に対する学生の関心を高めることができた。 ・起業時点では、何か独自のモノやサービスが手元にあるということだが、それらを知的財産で守るという認識の重要性や、キャリアの考え方として「攻めと守りの適切なバランス」についての気づきを促す機会、および、既存カリキュラム内では提供しきれない知識を学ぶ機会を創出できた。				
生徒・学生に見られた変化	・高専で学ぶことを社会で活用し、今後いかに個々のビジネススキルとして発展行かすべきか、またそのプランのもち方について関心を高めた学生が多かった。特に知財やスタートアップに関して関心が高まった。				
その根拠	・事後アンケート（5件法及び自由記述）の分析により、上記の傾向が観察された。 〈夏季/n=161〉アンケート結果まとめ（下図2参照） 〈冬季/n=124〉 3割強の学生（n=46）が、主体的なキャリア形成をしていく中での知的財産の重要性を再認識し、学生生活・研究活動を行っていくうえで、決して他人ごとではなく、日頃から研究ノートやアイデアノート、議事録などの些細な記録を適切に行うことや、各種ビジネスプランコンテストなど、外部に自分のアイデアを無防備に出すことのリスクを考慮しておくことの必要性和重要性に気づけたと回答していた。  また、講演内容に、①企業にも「アントレプレナー」と「イントレプレナー」があるということ、②年間の起業件数は15万社ということ、③仕事とは「興味関心>好きなこと>得意なこと」という自身のバイアスを認知しながら、その内の「好きなことや得意なこと、社会の誰かの役に立つこと・人の心を動かすこと」の重なる部分、という内容を受け、一見他人事に思える「起業」、それに伴う知的財産の管理ノウハウなど、自分もいずれは当事者になるかもしれないということがわかり、これからの進路について、あらゆる可能性を模索しながら考えていきたいと考えている学生が半数以上見られた。				
課題・反省点	・単年度で数回の取り組みでは、特にキャリアビジョンの形成に関して十分であるとは言えず、複数年で学年や習熟段階に応じた系統的な指導を可能とするカリキュラムの形成が必要である。				

今後の展望

・5年間の教育課程の中でキャリア教育、アントレプレナーシップ教育、知的財産に関わる教育がなされるよう、学年ごとに実施内容を系統的に配置したカリキュラムや指導計画を作成したい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 2学年講演会の写真 (写真2) ベスト100選出の学生チーム (写真3) 校長先生へのプレゼン



(写真4) コンテスト応募指導の様子 (図1) 高専起業家サミット提出プラン事例

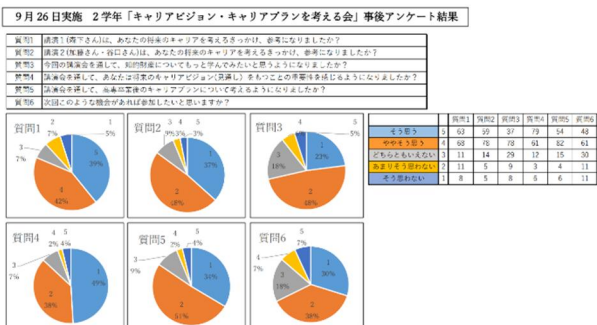
知的財産とスタートアップ人材・コンテスト応募の取り組み

近年全国高専では、スタートアップ人材の創出を目指したアントレプレナーシップを行っているが、技術的な課題に関連する特許にとどまらず、商標や実用新案等、種々の知的財産の仕組みを理解することも重要である。また特許明細などの構造を参考にしたアイデアの構造化も重要なスキルである。

そこで本年度は上記目的達成の環境整備を目指して、以下の取り組みをおこなった。

- (1) スタートアップ人材によるキャリアセミナー
- (2) 種々のコンテスト応募チャレンジ
- (3) 課題発見型インターンシップ

これらの取り組みについて、卒業生でスタートアップを起業している人材のサポートをいただきつつ、いくつかのコンテストで上位入賞を果たした。



(図2) 夏季キャリア講演会アンケート結果まとめ